

総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。 スポーツ振興くじについては以下から [日本スポーツ振興センターHP] http://www.jpnsport.go.jp/

スポーツくじ 🚥





スポーツ振興くじ助成事業

ユニークな場所で活動するクラブ



▶▶▶ NPO法人火の山スポーツクラブ

特別企画 介護予防等の健康づくりに取り組むクラブ

▶▶ NPO法人ひめさゆりくらぶ

▶▶▶ あまスポーツクラブ

載 みんなで盛り上げよう! オリンピック・ムーブメント

- ▶日本体育協会 総合型地域スポーツクラブ全国協議会
 - ▶▶ 一般社団法人 芸北道場
- 助成金情報 ▶▶▶ 詳細
- お知らせ▶▶▶ 詳細
- バックナンバー▶▶▶ 詳細







ユニークな場所で活動するクラブ



くまがしクラブ



<奈良県生駒郡平群町>

日本体育協会が「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2013」で掲げる総合型クラブの基本理 念である「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」を実現するためには、クラブの活動 が地域に根差し、クラブが安定的に運営されることが必要です。安定的な運営のためには、地域 で活用できる様々な施設や場所、空間を調査し、活動拠点以外の施設も利用できるよう関係機 関・団体と話し合う取り組みが求められます。そこで今回は、ユニークな場所で活動を行っている クラブを紹介します。



- 住民目線でニーズを反映し、住民主導のスポーツクラブを目指す
- 道の駅イベントを活用し教室へ勧誘 道の駅ギャラリーに展示→参加者増
- クラブ認知度高まり事前申し込みが毎年増→発足5年目で会員400名超

クラブ概要

くまがしクラブは、行政主導の下、平成23年1月に発起人会が発足し、体育協会・長寿会・婦 人会・町子連・地域振興センターの各種団体が集まり、平成23年4月に開催された設立準備委 員での協議を経て、平成25年3月16日に「くまがしクラブ」が設立されました。

「町民ひとり1スポーツ」を合言葉に「目指せ会員1000人」を掲げ、会員自ら運営に参加して自 主自立を目指して5年目を迎えました。現在、地域振興センターが指定管理者として運営してい る平群町総合スポーツセンター内に事務所を構えて教室事業を展開しています。また『道の 駅』も指定管理者として地域振興センターが運営管理していることから、地域振興センターが 行っていた教室事業の形を変えて引継ぎ、ハード面は「地域振興センター」、ソフト面は「くまが しクラブ」とすみ分けして地域振興のために協働しています。

現在、409名の会員(多世代として幼児から高齢者まで)の登録があり、普及クラスとともに強化 クラスまでを育成するアカデミー構想の基、地域で講師を育成する講習会を年9回開催してい ます。また竜田川沿いの総合型地域スポーツクラブが5クラブ集まり「たつたがわ連絡協議会」 を設立して、教室事業の相互協力・イベント開催を行っています。



(2) 道の駅でクラブ活動

①行政の提案でソフト面の運営を引き継ぐ

もともと「地域振興センター」は行政の第3セクターとしてスタート。総合型地域スポーツクラブ を生涯学習に取り入れる際に両方の組織がうまく行くようにと教育委員会が町行政と勘案して、 ハードとソフトを分けました。指定管理の中にスポーツ教室や文化教室などを行う契約を交わし て、第3セクターの「地域振興センター」にお願いしていましたが、この部分を住民主導の総合型 地域スポーツクラブ「くまがしクラブ」に移行することになりました。

こうした背景があり、地域振興センターから「道の駅大和路へぐり・くまがしステーション」で道 の駅教室を依頼され、平成27年度からスタート。道の駅は地域の農業振興が目的で、地域振 興のために生産した農作物の販売や農作物を利用して生産者と一緒に作ることを目指したお 菓子教室・パン教室・クッキング教室の他にアロマ教室・クラフト教室等がありました。

行政が求めるクラブは、地域住民の人たちが自分たちの住む地域に何が必要なのかを一番 良く理解し、住民の目線で意見やニーズを的確に反映させることができる組織です。「住民によ る住民のための住民のクラブ」を目指し、ソフト面を「くまがしクラブ」ですみ分けして行うことで、 より良いサービスが提供されることが期待できるため、総合型クラブに引き継がれました。



道の駅大和路へぐり・くまがしステーション

②企画運営に携わる貴重なボランティアスタッフ

「道の駅」教室を企画運営するにあたって、平成26年秋よりボランティアスタッフとして、くまが しクラブに参加している新井朋子さん(38歳)が担当しています。子育てに追われる中で、幼稚 園のPTA役員を1年間活動した経験がきっかけとなり、小さい頃から子供たちに色々な体験を 通じて生きる力を養ってもらいたいという想いから、ボランティアへの参加となりました。



③「えんぴつスケッチ」「多肉植物寄せ植え」教室で軌道に 作品展→新たな参加者

えんぴつスケッチ教室、多肉植物寄せ植え教室を考案してスタートさせましたが、当初は募集をかけたものの2~3名のスタートとなり苦労しました。えんぴつスケッチ教室は、道の駅で販売している花やカボチャなどの野菜、特産のいちごにぶどうなどの果物のほか、教室の2階の窓から望めるのどかな風景もスケッチしてもらいました。描き終えたスケッチを道の駅ギャラリーで作品展として飾ることで、目にした人が始めるきっかけとなるケースも増えて、今では2クラスの教室事業を実施しています。水彩画教室もが考えましたが、絵具や水を使うことで絨毯を汚したりすることにも配慮し、誰でも気軽に書ける「えんぴつ」を選択しました。

多肉植物寄せ植え教室は、夏・冬の道の駅ー日イベントを利用してアンケート調査を実施し、 興味のある方に後日、開催日の連絡を行ったりした甲斐もあり、定員15名に対して12名~13名 となりました。「やはり口コミです。常に発信し続ける事が大事だと知りました。企画運営は本当 に難しく、勉強させてもらっています」と大変謙虚に話す新井さんの姿が印象的でした



えんぴつスケッチ教室







多肉植物寄せ植え教室



A 2 **A**

④体育館とは差別化して体幹ヨガ教室 高い参加料ながら若者に人気

スポーツとしては、体幹ヨガ教室があります。体育館でのヨガ教室と同じ講師が担当していますが、内容を少し差別化してプレミアム教室としてうたっています。体幹を鍛えるための道具も用意してプログラムが組まれている点が体育館とは違った特色で、参加料は高いですが少数精鋭で8名の会員が受講しています。先生も爽やかで、憧れの講師ということもあり、若い人が多く参加しています。教室が終わった後は、1階にある「hanana」でベジタブルランチをみんなで一緒に食べてから帰ると聞いています。

料金のシステムですが、会員登録1,000円とスポーツ保険の他に参加料としてプレミアム教室が「月3回で4,000円」(一般ヨガ教室は「月4回で3,000円」となっています。他の教室は1回あたり350円~850円で、指導者謝金や経費等の金額を、定員の6~7割の人数で割って算出しています。







河野妃世 先生 スタッフ 新井朋子さん

3 会員の交流場所としての道の駅

道の駅には、町民だけではなく他の市町村からの来客も多くあります。そこで、初めて総合型クラブを知ってもらうことができるのが、夏・冬の道の駅一日イベントです。道の駅に来客された人に500円~1000円で体験できるイベントで、クラフト教室・木工教室・多肉寄せ植え教室・お菓子作り教室があります。材料の関係で4教室・定員180名ですが、すべて定員を満たしてしまう程の人気となっています。定員180名の内、平群町の人が多く、イベントを知った町民から予めの申し込みが毎年増えています。これは、総合型地域スポーツクラブの認知度が増したことが一因となっています。クラブマネジャーの北さんは「町民が交流することで、くまがしクラブ会員も増えるという相乗効果が出ている」と話しています。



4) 今後は文化的教室も視野 事業展開の根底に地域振興

地域振興センターから教室事業を引き継ぎましたが、貸館業として2階部分の貸し出しを地域 振興センターが行っている関係で、個人の先生が華道教室等を開いています。このため、クラ ブとしても種目がかぶらないよう配慮しています。地域で活動して頑張っている人と協働してい く姿勢を堅持しています。飛び跳ねたりなどの運動が、道の駅ではできないことから、ヨガなど 静的な種目を採用していますが、今後は文化的なものを中心に道の駅教室に取り入れていく 予定です。道の駅での食育を通じて、地域コミュニティの輪を広げ、スポーツに対しても興味を 持ってもらい体育も育んでいきます。そして道の駅のセールスポイントとして、北さんは「根底に 地域振興があることを忘れずに事業を展開していきたい」と意気込んでいます。

> (くまがしクラブ クラブマネジャー・北和恵、ボランティアスタッフ・新井朋子) (奈良県クラブアドバイザー 川崎香織)

クラブ プロフィール

設立年月日 平成25年4月1日

所在地 奈良県生駒郡平群町福貴72

会員数409名(平成29年6月現在)、予算規模2.400万円(平成29年度)

有給職員 2名

「町民ひとり1スポーツ」を合言葉に、平群町内外の青少年健全育成と地域住民の生涯

スポーツの推進を図っている。普及活動の裾野を広げるべく、頂点たる強化(アカデミー) クラスの育成に力を注ぐため、指導者講習会を新たに設けて地域での指導者育成に取り 組み、また文化活動を行うことで多様な会員を集めコミュニティの場を広げて、地域連帯感

あふれるクラブを目指している。

〒636-0936 奈良県生駒郡平群町福貴72 平群総合スポーツセンター内 連絡先

くまがしクラブ

電話番号 0745-44-9007 FAX 0745-45-0743

E-Mail heguri@kumagashiclub.com URL http://www.kumagashiclub.com





ユニークな場所で活動するクラブ



NPO法人 火の山スポーツクラブ <能本県阿蘇市>



日本体育協会が「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2013」で掲げる総合型クラブの基本理 念である「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」を実現するためには、クラブの活動 が地域に根差し、クラブが安定的に運営されることが必要です。安定的な運営のためには、地域 で活用できる様々な施設や場所、空間を調査し、活動拠点以外の施設も利用できるよう関係機 関・団体と話し合う取り組みが求められます。そこで今回は、ユニークな場所で活動を行っている クラブを紹介します。



- ハードルを下げた活動しやすい環境整備が必要との観点からスタート
- 震災後は神社や観光地の商店街道路を利用しトレーニングを実施
- 空き家をクラブ事務所として借用→各種会議→運営スタッフと指導者の



クラブ概要

《クラブ設立の背景》

昨今、「健康ブーム」が取りざたされている中、誰でも気軽に参加できるスポーツ環境の整備、 医療費の削減などに向けた動きに注目が集まっています。

この流れを受け、阿蘇市内でも行政や地域でもスポーツ環境の整備・人材育成に力を入れよう としているものの、実際には単発(短期)で終わってしまい、3町村合併により対応領域も広いこ とから、明確なスポーツ(運動)スタイルの確立が存在していませんでした。

地域では、『スポーツ(運動)をしたい。しないと不健康になる』との思いをよく耳にしますが、活 動するまでのプロセスで二の足を踏む方も少なくありません。体育施設の予約や一緒に活動す る人への連絡、既存組織への申し込みなど、意外と多くのステップがあるがゆえに体を動かす までに至らないという実情があったようです。



このような状況をなくすため、ハードルを下げた活動しやすい環境整備が必要不可欠であるという確固たる認識から、阿蘇市での総合型地域スポーツクラブの立ち上げが進められ、「火の山スポーツクラブ」が設立されました。

《設立時のキーパーソン》

スポーツ推進委員(当時は体育指導委員)有志と阿蘇市教育委員会が主導してクラブが設立されました。

《クラブ理念》

阿蘇市民又その周辺住民に対して、主にスポーツ活動に関する事業を行い、自発的なスポーツ活動を通じ、生涯にわたって誰もが、誰とでも、それぞれの体力、年齢、興味や目的に応じて、いろんなレベルのスポーツを楽しみ、誰もが生き生きと暮らせるまちづくりと、生涯を通じた健康づくりを楽しみ、ひいては阿蘇市民又その周辺住民の健康増進を目的とする。

自主事業の安定化(自主自立)、住民ニーズへの対応、運営フットワークのスピーディー化など を目標に掲げ活動しています。

《現在までの経緯》

H19.7.3 設立準備委員会

H20.2.24 クラブ設立(設立総会)

H24.10.11 法人格取得

H29 現在に至る

《現在の活動状況》

13種目 事務局1名(公認アシスタントマネジャー資格取得済)

年会費 2,000円~6,000円(※年齢による ※入会時期により差異あり)

入会金 600円(継続会員は0円)

会 員 新規会員34% 更新会員66% 男性会員51% 女性会員49% 未就学児~高

校生会員26% 19歳~40代25% 50~60代39% 70代以上10%

自主事業 行政等イベント委託(大阿蘇元気ウオークほか)、自動販売機設置、体験教室

の実施

財源 年会費、入会金、自主事業、協賛金



2

ユニークな場所で活動するまでの経緯・取り組みの内容等

【地震の影響によりスポーツ施設を使用できない環境から生まれた活動】

平成28年4月に発生した熊本地震の影響により、阿蘇市は甚大な被害を受け、体育館や各種グラウンドなどのスポーツ施設が使用できない状況となりました。クラブプログラムとして実施していた「ソフトテニス」も、テニスコートが使用できない状況となりました。

そこで、ソフトテニスの指導者で行政担当者でもある窪田氏が阿蘇神社付近の商店街前の道路や常時人が集まる神社を使ってトレーニング(ロードワーク、筋トレ等)をすることを企画し、夏ごろから11月まで実施。使用した道路は観光地にあり平日の夕方以降は、ほとんど車が通らないことがわかっていたことから、この場所を使用することにしました。人目につく場所で実施したことにより、商店街の数店舗の店主らが首にタオルをかけてロードワークに飛び入り参加してくるなど、クラブの存在をアピールすることができました。

また、クラブ員有志が避難所となっている体育館を巡回し、被災者に体操を促すなどのボラン ティア活動も実施しました。

【クラブハウス=民家】

現在、火の山スポーツクラブは、松本クラブマネジャーの住居兼クラブ事務所として、空き家だった築60年の一軒家を借用しています。

毎月開催している運営委員会や、3、4か月毎に開催している指導者会議の会場としても利用しており、運営スタッフと指導者の親睦を深めるため懇親会も開催しています。

この懇親会については他の総合型地域スポーツクラブ関係者やスポーツ関係者もwelcomeとしており、直近では全国スポーツクラブ会議後に視察に来られた県外の総合型地域スポーツクラブ関係者(北海道、福島、群馬)の方とも親睦を深めることができました。

3 ユニークな場所を使用したことによるクラブや活動地 域への効果・影響、現在の状況

日頃であれば、体育館やグラウンドに出向いた人にしか目に触れないクラブの活動ですが、 道路や空スペース、神社石段でのトレーニング(ロードワーク)を行ったことで地域の商店街の 人などの目に触れ、クラブの活動を知っていただくきっかけにもなりました。商店主のクラブ加 入促進や協賛店に取り込むことには至っていませんが、通常のクラブ活動場所に復帰すると、 神社でのトレーニングに参加した商店主たちが子どもをクラブに加入させるという効果が生ま れ、会員数の増加につながりました。



また、会場(施設)がなくても「何かできる」という意識がクラブの中でも高まりました。地震からの復興が進みスポーツ施設が少しずつ元に戻りつつある中、「新たに何ができるのか、スポーツ以外のイベントにつなげられないか」といった意識も生まれています。

$\left(4\right)$

4) 今後の課題・展望

クラブの存在自体がまだまだ認識されていないのが現状です。市の人口に対する住民のクラブ加入率の数値目標を今一度再設定し、周知活動や会員獲得へ向けて具体的な案を出し合って動くことが必要と考えています。

アドバイザーという立場から見ると、クラブの運営スタッフ、指導スタッフともに充実している状況で、研修会にも必ずといっていいほど火の山スポーツクラブからは参加者が複数人いることなどから、高い向上心も伺えます。今後は、その高い経験値や見識を現場でアウトプットし、更に具体的な動きに結び付いていくことを期待しています。

また、クラブの課題として、各教室(プログラム)の質の向上が挙げられます。教室があって、 指導者があってのクラブです。その各教室自体が総合的にレベルアップを図っていくことが、ク ラブの全体の発展につながると思います。

「クラブの質」について、"誰でも入れる雰囲気づくり、活動環境、心身のケア、参加費設定、 用具の充実、指導者の資格レベル、指導者のコミュニケーション能力"など挙げられますが、現 状に満足することなく常に気持ちと情報をアップデートしていくことにより、良いクラブ組織にな ると考えます。

クラブ設立当時の行政担当で、現在経済部まちづくり課の窪田氏は、「インプット(勉強)・アウトプット(得たものを出す)・アップデート(更新)を『日常的に』心掛け、実践していくことで我々のクラブ、ひいては全国のクラブが成長していくのではないか」と語っています。

そして、先頭に立ってクラブを誘導していくのが事務局(クラブマネジャー)であると思います。 事務局が年齢や社会的立場上やりにくさを感じることなどがないよう、周りのスタッフがより『やりやすい環境』の整備をすることが、クラブにとって最優先・最重要だと考えます。

阿蘇市は、平成28年4月に発生した熊本地震に加え、水害や火山の噴火など、様々な自然 災害に見舞われてきましたが、その度にこの火の山スポーツクラブが地域のために動き、行政 との絆も深めてきました。今後も活躍の期待が高まる一押しクラブの一つです。

(熊本県クラブアドバイザー 太田黒 尚子)



クラブ プロフィール

設立年月日 平成20年2月24日

所在地 熊本県阿蘇市

運 営 会員数263名(平成29年3月31日現在)、予算規模約500万円(平成29年度)

有給職員 1名

特 徴 阿蘇市の人口は約27,000人、熊本県東北部、熊本市から約50kmの九州山地内に位置し、

旧・一の宮町区域の大部分は阿蘇山が形成したカルデラ盆地の中に含まれている。

人気プログラムである「ウオーキング」や「HIP-HOPダンス」等の他に、阿蘇市の環境ならでは

の「乗馬」や「ゴルフ」などのプログラムもある。

阿蘇市主催のウオーキングイベント「大阿蘇元気ウオーク」では諸準備・運営に係る委託、 さらに阿蘇市社会福祉協議会から高齢者運動指導の委託を受ける等、行政との連携体制も

構築している。

熊本地震発生直後においても、各避難所にて運動指導をするなど、地域課題解決のため

積極的に活動している。

連絡先 〒869-2301 阿蘇市内牧2052-2

電話番号 0967-32-1441 FAX 0967-32-1441

E-Mail hinoyamasc@yahoo.co.jp
URL http://hsc.moo.jp/

通常:ソフトテニス







ロードワーク









ロードワーク



クラブハウス兼クラブマネジャー宅











特別企画

介護予防等の健康づくりに取り組むクラブ

NPO法人ひめさゆりくらぶ <福島県喜多方市>

総合型クラブの活動は、地域住民へスポーツ活動を促す契機となり、地域住民の健康増進お よび体力づくりに大きく寄与することができます。また、総合型クラブが地域に根差し、必要不 可欠な団体となるためにも、健康・医療など地域の諸課題を解決する公益的な事業を積極的に 行うことが必要となってきます。

そこで今回は、高齢者向けのプログラム等の実施を通して健康づくりに取り組むクラブを紹介 します。





クラブ概要

熱塩加納町は喜多方市の最北部に位置し、65歳以上の人口の割合が33%を超え、15歳未 満の人口が約10%と典型的な少子高齢化地域です。それに伴い、高齢者の医療費の増大や 子供たちの部活動の再編、スポーツ少年団の減少、地域住民の人間関係の希薄化というよう な問題を抱えていました。

こうした状況を踏まえ、スポーツやレクリエーション及び文化活動に取り組むことの機会や環 境を提供し、子供たちの健全育成や、世代を超えた交流の場をつくり、元気で活気あふれる街 づくりを目指すという理念のもと平成20年2月に設立されました。平成26年には経営の透明化と 活動の充実を図るためにNPO法人格を取得しました。現在はスポーツを中心に町内の体育施 設で活動しています。

主な活動としては、定期教室としてU12スポーツ少年団(多種目型スポーツ少年団)、フットサ ル教室、バドミントン教室(小学生以上)、家庭バレーボール教室(中学生以上)、グラウンドゴ ルフ教室、ピラティス教室(介護予防運動)の6種目で、その他に社会福祉協議会と連携した介 護予防運動教室を不定期に開催しています。これらの教室はU12スポーツ教室とフットサル教 室以外はすべてお茶タイム付きの教室です。







U12 合宿





U12 活動風景

U12 親子で奉仕作業

2

高齢者の集落に出向いて問題解決 近隣クラブから介護予防 スタッフの派遣受ける

ひめさゆりくらぶが設立される際に、会員の住む地区に地域の課題についてアンケートをした結果、熱塩加納町は山間部の小さな集落が多く、交通機関も整備されておらず、高齢者が気軽に集える場所や機会が、徒歩や自転車で行ける距離にはないということが課題の一つとして挙がっていました。また、高齢化による医療費の増大も町の課題でした。設立時に事業計画を立てる際に、これらの問題を解決する方法はないかと話し合った結果、自分たちがその集落へ出向いて行って参加者が体を動かしお茶を飲んで、健康維持の場と交流できる機会をつくろうということになりました。

しかし、当クラブには介護予防運動をできるスタッフがいないことや、設立したばかりで、ひめ さゆりくらぶについて理解している人はほんの一握りの人しかいないという問題がありました。 そこで、指導者については近隣の総合型クラブに指導者を派遣してもらって活動することにしま した。参加募集の手段は、開催地区の区長さんに趣旨を説明し、協力をお願いして、チラシの 全戸配布と会員がその地区の知り合い一人ひとりに参加の声掛けをして参加者を集めました。



(3)

3 取り組み内容

① 医療費増大が端緒 4地区のセンターに出向き教室実施

熱塩加納町においても高齢化が進み、平均寿命と健康寿命との差があり高齢者の医療費増 大は大きな問題となっております。ひめさゆりくらぶは、これらの問題を少しでも解決するお手 伝いをしたいと思い、平成21年度から介護予防運動教室を開催してきました。

この教室は、できるだけ多くの方に参加していただくために、町の公民館ではなく地域の方が歩いて行ける場所で開催してこそ意義があると思い、毎年町内の4地区を選んで、各地区年1回その地区のセンターへ出向いて実施してきました。

② モデル地区ではピラティス教室を通年継続開催 体組成測定を採用する教室も

そんな中、ある60代の会員さんから、「自分の住む地域で、秋まで元気だった高齢者で春には寝たきりになってしまう方が何人もおり、自分たちの年代から介護予防のための運動をしていくのが大切だと思った」というお話がありました。この指摘を受け、介護予防運動教室は単発開催ではなく継続してやるべきだと考え、平成27年12月から平成29年3月までその会員さんの地区で、モデル地区としてピラティス教室を通年開催することになりました。ピラティスとは、無理のない動きで、背骨のストレッチを行い体の奥の筋肉を鍛え、骨盤のずれを矯正できるというものです。講師の先生は、会員さんからの紹介でお願いすることができました。

また、ひめさゆりくらぶでは、自分の体の状態を知ってもらって介護予防の大切さを意識付け し、健康寿命を延ばしてほしいということから、平成26年度より会津大学短期大学部の先生と 連携して、グラウンドゴルフ教室の参加者の体組成測定を年2回実施し、測定結果を本人に渡 してきました。すると参加者から練習前にラジオ体操をやろうという声が上がり、教室の最初に は必ずラジオ体操を行うようになりました。





③ クラブ不在地区では他クラブと合同開催

平成28年度には、うつくしま広域スポーツセンターの各種団体連携事業で、喜多方市にご協力いただき、やまとスポーツクラブと2クラブで、福島県レクリエーション協会と連携して、介護予防運動を喜多方市内で開催することになりました。

まず、うつくしま広域スポーツセンター・喜多方市・福島県レクリエーション協会・やまとスポーツクラブ・ひめさゆりくらぶの5団体が集まり、合計12回の教室をどのように開催するか検討しました。

現在の喜多方市内には総合型地域スポーツクラブは3団体しかなく、総合型クラブへの認知度は無いに等しい状況なので、クラブのない地域に総合型地域スポーツクラブというものを理解してもらえるようにするとともに、現在活動中の2クラブをPRする良い機会にしようと考えました。開催場所はクラブのない地区で、なおかつ今後自分たちが活動の輪を広げやすいように自分たちの近隣の地区を選んで開催しようという案が出されました。その結果ひめさゆりくらぶ、やまとスポーツクラブでそれぞれ拠点となる地区で4回ずつ実施し、残り4回をクラブのない地区で合同開催することになりました。

④ 知人介し参加要請→クラブ不在地区でも認知度アップ

クラブのある地区ではクラブというものを認知していただいているので、対象の団体にチラシを配れば参加者を集めることができました。しかし、初めて開催する地区では、クラブへの認知度はゼロに近いため、参加者を集めるのに苦労しました。チラシを全戸配布してもらい、締め切り1週間前に集まり具合を確認すると、2~3人しか申し込みがないという結果でした。そこで、対象年齢の方が参加される公民館の教室のときに、説明とPRの時間をいただき、手分けして説明とPRをしました。それでもなかなか参加者が増えず、開催地区に住む知り合いの方に声掛けをして参加を呼び掛けてもらいました。

その結果、各地区10名以上の方が参加してくださり、総合型クラブのない地区の方にも、私たちの活動を知っていただくことができました。

また、参加された方にアンケートを実施した結果、「とても楽しかったので、定期的な活動として参加してみたい」という方が全体の90%を超え、今後活動の輪を広げていく上で、とても良い契機となりました。





健康への関心高まる→医療費増大の解決策の一助に

この活動に取り組んだことにより、地域の方の健康への関心が高まり、クラブへの認知度も高まりました。また、参加された高齢者の方々が少しずつ元気になっていく様子が感じられ、この地域の課題である「高齢者の医療費増大」の解決策の一助になっていると思います。さらに、社会福祉協議会からも教室の開催を依頼していただけるようになり、よりきめ細かな活動をするためのネットワークを結ぶことができました。

5

社協・行政と連携→身近で気軽な介護予防運動を サロン的場所提供も視野

喜多方市は今後ますます高齢化が進み、会場までの移動手段が徒歩や自転車という方が増えることが予想され、移動が面倒になり、引きこもりがちになって体を動かさなくなるという悪循環が生まれやすくなると推察されます。そこで、ますます身近で気楽に集える場所ときっかけづくりが必要になると思います。

これからは社会福祉協議会や行政とも連携しながら、徒歩や自転車で移動できる範囲で、ピラティスにこだわらず、レクリエーション体操やシナプソロジーなどいろいろな形で介護予防運動を行うことが大切であると考えます。サロンのようにお茶を飲んで集える場所づくりをきめ細かく展開したり、大学等の教育機関とも連携し体組成測定を組み合わせたりするなどの工夫も大切と感じています。介護予防の大切さをできるだけ多くの方に知っていただきながら、明るく元気なまちづくりのお手伝いができるクラブに成長するよう努力していきたいです。

6

財源・指導者不足が課題 地域に根差した活動を地道に推進

現在の大きな問題は財源と指導者の不足です。しかし、社会福祉協議会や行政、その他各種団体とも連携し、財源確保と組織強化を図るようにしていきたいと考えます。一人でも多くの方に参加していただけるよう、また、活動が継続できるよう、無理をせず地域に根差した活動を地道に進め、元気で明るい地域づくりを目指していきたいと思います。

(NPO法人ひめさゆりくらぶ 平林 ひろ子)





クラブ プロフィール

設立年月日 平成20年2月29日(平成26年12月11日法人登記)

所在地 福島県喜多方市熱塩加納町

運 営 会員数101名(平成29年6月現在)予算規模185万円(平成29年度)

有給職員 1名

特 徴 ひめゆりくらぶは市町村合併直前の熱塩加納村(現在の喜多方市熱塩加納町)に

設立しました。合併しても、地域に密着した活動を進めていこうということで、村の

花である「ひめさゆり」をクラブの名前に冠した。

熱塩加納町は人口が約2,600人という小さな町のため、参加者の取り合いになら

ないようにしながら既存の団体と競合しない内容の活動を実施している。

また、アスリートを育てるのが目的にクラブではなく、あまり運動が得意でない方も 気軽に参加でき、子どもからお年寄りまで多世代の人が親睦を深めながら、活動 を通して体を動かすことの楽しさを知ってもらい、健康推進につながることを目的

に活動している。

連絡先 〒966-0103 福島県喜多方市熱塩加納町相田字大森5000番地

電話番号 090-7072-1310 FAX 0241-36-2478

E-Mail gmafv-m25443@iphone.ne.jp





特別企画

介護予防等の健康づくりに取り組むクラブ



あまスポーツクラブ <愛知県あま市>



総合型クラブの活動は、地域住民へスポーツ活動を促す契機となり、地域住民の健康増進お よび体力づくりに大きく寄与することができます。また、総合型クラブが地域に根差し、必要不 可欠な団体となるためにも、健康・医療など地域の諸課題を解決する公益的な事業を積極的に 行うことが必要となってきます。

そこで今回は、高齢者向けのプログラム等の実施を通して健康づくりに取り組むクラブを紹介 します。



クラブ概要

あま市に総合型地域スポーツクラブ「あまスポーツクラブ」が設立されたのは4年前で、まだ発 足間もないクラブです。全国に次々と総合型地域スポーツクラブが設立される中、市長が掲げ る「勇健都市」の名のもと本クラブがスタートしました。

当時のクラブマネージャーは木全克己さん。大学講師を務めており、認知症予防や高齢者・ 幼児期のスポーツの知識に明るく、地域での福祉活動も積極的に行っている方です。ご自身で 講師も務める傍ら、地域のニーズを数値で細かく読み取り、設立に向けて講座開講の調整を 行ってきました。

その後、「あま」の頭文字をとった、「あかるく元気にいつまでも」「まわりの仲間といつまでも」 をスローガンに平成26年4月に8つの講座を開講しました。現在では年間を通して行う講座が20 講座、短期で行う講座が10講座と、たくさんの方にスポーツ参加への機会を提供することがで きるようになりました。現在約400名の方に参加いただいています。



2

介護年齢引き上げ目指しシルバー講座継続、運動と脳トレを実施

高齢者向けプログラムに取り組むきっかけとなったのは、地域の大きなニーズと介護年齢です。あま市では介護年齢を引き上げるべく、クラブ設立前から多くの団体が高齢者の支援活動を行っていました。しかし、活動はそれぞれバラバラで、参加費もまちまち、申し込む場所も様々ーと地域の方が参加しづらい状況でした。行政にも、様々な場所で行われている支援活動を統一し、分かりやすいものにしたいという思いがありました。

こうした背景から、当時のマネージャーである木全さんが中心となり、設立当初より「ライフワークフィットネス(現在はシルバーエクササイズ)」と題うって、講座を継続してきました。現在では30名を超える参加者の方と月に2回運動や脳トレを行っています。運動内容は、フラフープでの縄跳び、ラダー(縄梯子)を使ってのステップ、ボール投げなど毎回違った動きを取り入れています。脳トレは、歌や手遊びのほか、左右の手で違う動き、色と動きを組み合わせた動きなどです。

一方で、参加したくても遠くて現地に行けない、講師不足で参加者のニーズに対応しきれないという問題も抱えています。解決に向け、地域高齢者サロンを訪問して現場のニーズや実際の声を聴くだけでなく、他クラブとも連絡をとることにより、指導者登録の拡大などを行っています。指導者が増加したことにより、講座の種目数が増え、委託事業を新たに受け入れる準備が整いました。クラブに安心して委託できるという認識を市の行政にも持ってもらえるようになっています。





(3)

苦心した講師確保 綿密な講師との協議 講師の会話も人気要因

講座の実施にあたり、一番苦労したのは講師の確保です。現在クラブで支払える謝金は1人あたり最高4500円と、ほとんどボランティアで講師を引き受けていただいています。納得いただける講師の方は少なく、多くの方に断られましたが、クラブ関係者に紹介してもらったり、愛知県内のクラブが加盟する連絡協議会であるSCネットワークあいちも活用したりして講師確保に努めました。

講座の実施までには、クラブで用意する聞き取りシート(活動日と時間、他に指導できる活動、代役の有無など)をもとに講師と話し合い、具体的なプログラム内容(1か月毎)、対象、目的などを教えていただきます。1日のプログラムの中には5~6種類活動を入れて、メリハリのある内容になっています。具体的には「2」でも一部触れたように、風船を膨らませて投げ受けを行う運動、ラダーを使って足元を鍛えての転倒防止運動、フラフープやストレッチポールを使った運動などです。講師の豊富な知識をもとにプログラムを組んでいただいているため、効果も確かに感じております。また、講師の楽しい会話も人気の要因になっています。





4

継続参加→交流の場→スタッフの団結力・目的意識が向上

この4年間で何度かローカルテレビがクラブの活動を取り上げてくれたことにより、たくさんの方に活動を知っていただくことができました。また、出来て間もないクラブの軸になる活動として今後も続けていこうとスタッフ全員が意気込んでおり、クラブの団結力やスタッフの目的意識の向上につながっています。

参加者の多くが継続して参加しているため、コミュニケーションの場、よい気分転換の場にもなっていると実感しています。会員さん同士が名前で呼び合う姿を目にすると、活動してきて良かったなと感じます。

5

参加者が継続したくなる環境を提供 行政と連携し 地理的ハンデ解消へ

高齢者の健康増進を推進するために最も肝要なのは、活動の継続だと考えています。こうした講座を定期的に広い場所で実施し、参加者自身の意志では継続に至らない部分をサポートする役割を担っていきたいと思っています。

また、当クラブの理念でもある、「だれでも、いつでも、いつまでも、好きなレベルで」を達成していくことも大切な課題です。参加者の方が「やりたいな」と思ったときに気軽に手が届く「とき、場所、場合」を提供することをベースに、クラブづくりをしていかなければなりません。しかし、当クラブはあま市の中で端に位置するため、アクセス面から会員の方が気軽に参加できない事情があります。公共施設で受付のお手伝いをお願いするなど、クラブの目的遂行のためには行政の支援と理解が不可欠です。そのために、今以上に行政と密に連携を取り合いたいと考えています。









他団体活動の集約に向け一層の講師確保が課題

今後は他団体が行っている活動を積極的に請け負い、管理する場を集約していきたいと考えています。そのための課題が講師の確保であることから、現在クラブの運営に携わる運営委員にも、積極的に専門知識を身につけるための講習に参加するよう促し、指導者の資格等を取得してもらう予定です。

あま市に住む方がいつまでも元気に過ごし、「ここに住むと元気になる」と実感できるまちになるよう、今後も活動を続けていきます。

(あまスポーツクラブ 事務局 辻 萌)

クラブ プロフィール

設立年月日 平成26年1月26日

所在地 愛知県あま市

運 営 会員数241名(平成29年7月現在)、予算規模1,054万円(平成29年度)

有給職員 4名

特 徴 高齢者、次いで子どものクラブ参加の割合が高く、地域のニーズもその点に

集中している。

平成28年度から「応援会員」という会員区分を新設。行政の方を拠点としてスポーツ講座を展開するのではなく、地域の公共施設を広く活用している。

連絡先 〒497-0006 愛知県あま市七宝町伊福宮東3-1

電話番号 052-442-5177

E-Mail <u>ama-sports-club@clovernet.ne.jp</u>
URL http://ama-sports-club.jimdo.com



日本体育協会総合型地域スポーツクラブ公式メールマガジン 第133号 平成29年7月20日発行

みんなで盛り上げよう! オリンピック・ムーブメント

ソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS)を活用した総合型クラブの周知 全国を#(ハッシュマーク)でつなげよう! あなたの地域に#総合型地域スポーツクラブ

オリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神(オリンピズム)に従って、スポーツを通じて 平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。2020年に向けて国内でもさまざまな活動 が行われています。

そこで、今回は6月23日のオリンピックデーに全国の総合型クラブや連絡協議会等が取り組 んだ「オリンピック・ムーブメント」を紹介します。

企画の目的

日本体育協会総合型地域スポーツクラブ全国協議会(SC全国ネットワーク)加入クラブ関係者 がSNSを使用し、総合型クラブの周知を行うことで、総合型クラブを知らない方々やスポーツを したいけどする機会がない方々※へのPRを図る(社会的認知度向上)とともに、加入クラブ同 士の一体感の醸成と交流の推進を図ることを目的としました。

※今回は特に、SNSを普段使用している若者をターゲットとしました。

企画内容

クラブ・個人が所有しているSNS(フェイスブックやツイッター)を活用し、6月23日のオリンピッ クデーに「総合型地域スポーツクラブ」、「地域でスポーツしませんか」の全国共通キーワードを 【#】ハッシュマークを付けて投稿!

※全国共通キーワード以外にもクラブが所在する地域やクラブ名にも【#】を付けて投稿!

実施日時 平成29年6月23日(金)オリンピックデー

SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス) 実施ツール

例):フェイスブック、ツイッター、インスタグラム等

SC全国ネットワーク関係者 約140名 参加者数

SC全国ネットワーク



(3)

企画に至った経緯

去る3月1日にSC全国ネットワーク平成28年度総会にて承認された「平成29年度の取組」に基づき、総合型クラブの社会的認知度向上を目的とした取組を行うこととなりました。

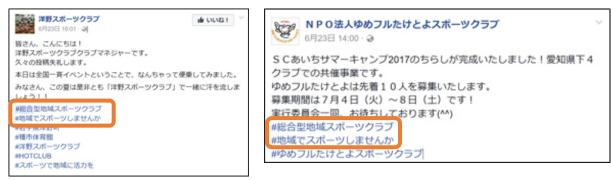
そこで、経費が掛からず、ユニークであり、全国各地のSC全国ネットワーク加入クラブを巻き込んだ総合型クラブの社会的認知度向上につながる取組に焦点を絞った結果、SNSを使用した企画を行うこととしました。

【実際に投稿したクラブ・連絡協議会の例(フェイスブック)】

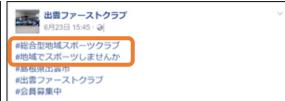


このように、【#】を文頭につけた文字は青くなり、全国共通キーワードをクリックすると・・ 全国共通キーワードを投稿した他のクラブの投稿も見ることができます!

【フェイスブック】









【ツイッター】

【インスタグラム】





まさに、加入クラブ同士の一体感の醸成と交流の推進のきっかけになります!

今回6月23日(金)のオリンピックデーに投稿したSC全国ネットワーク加入クラブ関係者は約140名でした。そして、SC全国ネットワーク加入クラブ以外でも、この企画に参加されたクラブ関係者がいました。また今回の企画を契機に、6月23日以降も【#】を使用し、【#総合型地域スポーツクラブ】と投稿しているクラブ関係者もいらっしゃいます。

全国各地で【#】を使用した同一キーワードが投稿されればされるほど、ターゲットは、そのキーワードをクリックすることで、各地域の総合型クラブの情報を手に入れることができるとともに、自身の地域の総合型クラブを見つけることができることから、この取組は、全国各地に存在する総合型クラブの強みを生かせると考えられます。

投稿数は少なかったかもしれませんが、今後、更に多くのクラブを巻き込んだ企画とすることにより、SNS上の大きなムーブメントとなることが期待されます!



4 今後の展望

今回、全国共通キーワードを、あえて同一日に投稿することとしたのは、【#】がついた共通 キーワードの投稿数が多ければ多いほど、旬の話題※として全国、しいては世界から注目され、 総合型クラブに興味・関心を抱く人を一気に増やすことができると考えたためです。

この企画をきっかけに、SNSを活用している総合型クラブの関係者に【#】を日常から使用いただき、来年度、同様の企画を行う際には、更に多くのクラブ関係者が参画できるよう【#】の使用方法等、企画の早期周知を行い、【#総合型地域スポーツクラブ】の発信を行っていきたいと考えております。

全国の総合型クラブが【#】を活用し、ラグビーワールドカップ2019、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会、ワールドマスターズゲームズ2021関西の盛り上げに寄与することにより、総合型クラブとしてのメッセージを全国しいては、世界に発信し、【#総合型地域スポーツクラブ】レガシーを残すことも期待できます!

※ヤフーやツイッター上で、その日に多く投稿されたキーワードが「注目キーワード」として、 ランキング付けされます

最後に、本企画にご協力いただきました都道府県総合型クラブ連絡協議会関係者の方々、企画を実施いただいた総合型クラブ関係者の方々に御礼申し上げます。ありがとうございました。

【#】使い方

- ① クラブ、個人が所有しているSNS(フェイスブックやツイッター)を使用します。
- ② 【#】を付けるキーワードを決めます。
- ③ キーワードの前に、#(ハッシュマーク)という半角のシャープをつけます。 例:【#総合型地域スポーツクラブ】【#東京都渋谷区】【#〇〇スポーツクラブ】
- ④ 正しく【#】が付けられると、【#】を付けた文字が青色になります。 ※青色にならない場合⇒【#】が全角の場合、「?」「!」「@」のような記号を使用している場合。
- ⑤ 投稿!!
- ⑥ 投稿した【#(文字)】をクリックすると、同じキーワードを投稿した方々を見つける ことができます!





日本体育協会総合型地域スポーツクラブ公式メールマガジン 第133号 平成29年7月20日発行

みんなで盛り上げよう! オリンピック・ムーブメント

オリンピック・ムーブメント事例紹介



一般社団法人 芸北道場 <広島県北広島町>



オリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神(オリンピズム)に従って、スポーツを通じて 平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。2020年に向けて国内でもさまざまな活動 が行われています。

そこで、今回は6月23日のオリンピックデーに全国の総合型クラブや連絡協議会等が取り組 んだ「オリンピック・ムーブメント」を紹介します。

オリンピックデー2017 みんなでつなごう! 芸北あまごリレー

平成29年6月23日(金) 実施日時

北広島町芸北運動公園 芸北B&G海洋センター 上屋シート付きプール 実施会場

参加者数 北広島町立芸北小学校児童・職員・スタッフ 約100名

一般社団法人芸北道場(協力=芸北小学校、八幡川漁協)



企画経緯

以前より広島県北広島町内の他地域で毎年オリンピックデーイベントが開催されていることか ら、芸北道場理事が「ぜひ、やりたい!」と発起人となり、芸北小学校の快諾も得て今年は芸北 地域でも初めて開催しました。芸北小学校は地域の学校でもあり、常日頃から協力・連携関係 を保ってきました。クラブの教室にも小学校の児童が参加し、保護者の方々にもご協力いただ いています。

開催に向け道場運営委員会で3回、小学校でも3回の準備会議を開き、ブランド名にもなって いる「芸北あまご」を使ってのバケツリレーを実施することになりました。



(2)

企画内容

<イベント概要>

- 縦割り班(計8班、各班8人前後)ごとに低学年からスタートし、バケツをバトン代わりにリレー形式で、ビニールプールの位置までの約15mを走り、あまご1匹をつかみ取りする。
- つかみ取りした、あまごはバケツの中に入れてスタート地点へ戻り次の人に渡す。
- つかみ取りを終えた子供たちはプールサイドに上がり他のみんなを応援する。
- アンカーがゴールした時点で終了。
 - ※リレーは2回実施。競争ではなく「つかみ取りリレー」を楽しむことが主眼。 最後の3回目はプール全体にあまごを放ち全員でつかみ取りを楽しむ。

<会場準備>

- 150匹の芸北あまごを調達。
- プールにくるぶし辺りまで水をためる。
- プール内に台を設置し、その上にビニールプールを据え、あまごを放す。
- 塩焼きにするための芸北あまごの焼台、串、食塩などを用意。

く当日スケジュール>

- 「始まりの会」で、クラブスタッフから参加児童にオリンピックデーの趣旨と開催に 至った経緯、具体的スケジュールについて説明。
- リレーを行う前に小学生低学年から、あまごをつかむ練習。
- リレーの実施。
- つかみ取りしたあまごは、塩焼きにしてみんなで食べる。 (道場スタッフと八幡川漁協の方々の協力を得て塩焼きに)

あまご どんな魚



サケ科の魚サツキマスの陸封型。体側に黒色斑紋の並ぶ清楚な魚で、小朱点のある点でヤマメと 異なる。西南日本の太平洋側河川の上流にすみ、全長約20センチ。

『芸北あまご』は、芸北道場地元の大暮川の清流水を使って大暮養魚場が育て上げた養殖あまごです。一般的な養殖あまごの2~3倍の時間と手間隙をかけ、薬品を極力使用せずに育てた大変活きの良いあまごは、地元のみならず、広島市内の飲食店や首都圏からも高い評価を得ています。



(3)

参加者・運営側の声

参加者の声(実施後)

- プールで初めてあまごのつかみ取りをして、とても楽しかった。
- 泳ぐ以外でプールの中を走り、面白かった。
- 水の中を走るのは思った以上に大変だったけど、貴重な体験ができた。
- みんなで、みんなにつないだあまごリレーが印象的でした。
- オリンピックを身近に感じるきっかけになり2020年が楽しみになりました。

運営者の声(実施後)

- 子供たちの笑顔が何より嬉しかったです。
- 走り終わった後、他のみんなを一生懸命声を出して応援している姿が大変良かった。
- 高学年が低学年を思いやり、サポートしながら一緒に楽しんでいる様子が印象的でした。

(4)

企画運営上の重要ポイント

当日を迎えるにあたり、小学校の行事を確認するとともに芸北B&G海洋センター上屋シート付きプールを確保し、さらに開催日の授業との兼ね合いを学校側と話し合い、八幡川漁協など各方面にも協力要請しなければならず、準備過程で多くの苦心がありました。また、開催日はプールの準備作業、塩焼きの準備作業等に追われました。

(5)

今後の展望

- 2020年東京オリンピック・パラリンピックへの関心が高まっている昨今、今回の取り組みにより私たちの国、日本で行われるオリンピックを地方でもより身近に感じられることにつながったのではと思います。
- 内容に変更があるかもしれませんが、何らかの形でオリンピックデーに関わるイベントを毎年実施し続けたいと考えています。

(一般社団法人 芸北道場 事務局長 深井 高子)



クラブ プロフィール

設立年月日 平成21年3月22日

所 在 地 広島県山県郡北広島町

住民の健康維持・増進及び青少年の健全育成に努めている。

また、豪雪地帯であるため、特に芸北地域特有のスノースポーツに力を入れ

活動を行っている。

連絡先 〒731-2322 広島県山県郡北広島町細見10141-16 芸北運動公園内

電話番号 0826-35-1045 FAX 0826-35-1058 E-Mail geihokudojo@khiro.jp



始まりの会 オリンピックデーについて、今日のスケジュールについて 説明を行いました。



スタート位置に並び、競技説明を聞きました。そして低学年の みんなはつかむ練習をしました。 そしてよーいドン。あまごのつかみ取りリレー。 みんな楽しそうです。



集合写真 がんばろう! オリンピック



つかみ取りしたあまごを塩焼きにしてみんなで食べました。 頭からしっぽまでしっかり食べました。







助成金情報

一般公募助成事業

[実施団体] (公財)ライフスポーツ財団

総合型地域スポーツクラブや地域で活動する団体で実施されている親子や幼少児を対象と したスポーツ事業(大会・教室等)に助成金を交付しています。

※大会・教室など事業に対する申請で、子ども(幼児・小学生)の参加者が30%以上である ことが条件

[申込期間] 平成29年4月1日(土)~平成29年7月31日(月)

様式をダウンロードし必要事項を記入のうえ、郵送します。

http://www.lsf.or.jp/josei

高齢者福祉助成(近畿 2府 4県限定)

「実施団体」(公財)大阪ガスグループ福祉財団

活力あふれる長寿社会を実現するため、高齢者を対象にした福祉活動や高齢者の社会参加 を支援する活動など、「高齢社会における地域福祉づくり活動」に対して助成します。

※滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、京都市、大阪市、堺市、神戸市の 社会福祉協議会の推薦が必要

[申込期間] 平成29年7月1日(土)~平成29年8月31日(木)

申込書をダウンロードし必要事項を記入のうえ、社会福祉協議会へ提出します。

http://www.osakagas.co.jp/company/efforts/fukushi/jyosei/fukushi detail.html

平成29年度(第24回)ボランティア活動助成

[実施団体] (公財)大和証券福祉財団

高齢者、障がい児者、児童等への支援活動及びその他、社会的意義の高いボランティア活 動に対して助成します。

※地域(都道府県及び市区町村)の社会福祉協議会、または共同募金会からの推薦が必要

「申込期間」平成29年8月1日(火)~ 平成29年9月15日(金)※当日消印有効

申請書をダウンロードし必要事項を記入のうえ、郵送します。

http://www.daiwa-grp.jp/dsf/grant/outline.html





お知らせ

日本体育協会情報

平成30年4月1日から、本会の名称が「日本スポーツ協会」に変わります。

- <変更前>
- 公益財団法人日本体育協会(英文表記:Japan Sports Association/略称:JASA)
- <変更後>
- 公益財団法人日本スポーツ協会(英文表記: Japan Sport Association/略称: JASA)

詳細については、こちらから

http://www.japan-sports.or.jp/index/news/tabid/92/Default.aspx?itemid=3551

日本体育協会公認スポーツ指導者資格情報

平成29年10月1日付公認スポーツ指導者登録手続きを開始します。

資格の取得および資格継続のために必要な手続きになりますので、該当する方は期限までにお手 続きいただきますようお願いいたします。

なお、該当の方には7月下旬に登録住所あてに登録手続き書類をお送りします。 (指導者マイページ保有者にはメールでもお知らせを送信)ので資格登録内容をご確認の上、登録 料のお支払いをお願いいたします。

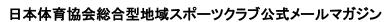
埶中症对策情報

夏の屋内外の運動で特に気をつけたいのが熱中症。 スポーツによる熱中症はしっかりとした予防をすれば防ぐことができます。 ガイドブックを読んで、熱中症を予防しましょう!

熱中症の病型と救急処置

熱中症の病型と救急処置、スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック等についてはこちらから http://www.japan-sports.or.jp/medicine/tabid/523/Default.aspx







セミナー情報

●日本体育協会関連事業

ブロック別クラブネットワークアクション2017 【日本体育協会 総合型地域スポーツクラブ全国協議会 主催】

総合型地域スポーツクラブ関係者が抱える課題解決の糸口を探るための情報の共有化や、クラブ育成支援のためのネットワークの強化を図ることなどを目的として全国9ブロックでクラブネットワークアクションを開催します。

開催日についてはこちらから

※詳細は8月頃から随時掲載します!

http://www.japan-sports.or.jp/local/tabid/508/Default.aspx

●日本体育・スポーツ経営学会 第56回研究集会

日本体育・スポーツ経営学会では、「スポーツとまちづくり - 総合型地域スポーツクラブを通じた公共空間づくり - 」をテーマに第56回研究集会を開催します。

日時 平成29年9月23日(土)13:30~16:30

会場 近江町交流プラザ:まなびい広場(近江町いちば館4階)、集会室

参加費(資料代含む)

一般会員2,000円、学生会員1,000円 非会員社会人3,000円、非会員学生2,000円

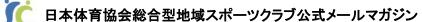
定員 70名

第56回研究集会 リーフレット

http://www.japan-

sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/H29/170923_Gakkai_Reaflet.pdf







フェアプレイ情報

■「フェアプレイの日記念イベント」

フェアプレイ応援団の就任発表、フェアプレイトークショーなどが行われました。 イベントの様子はこちらから

http://www.japan-sports.or.jp/index/news/tabid/888/Default.aspx?itemid=3559

応援団の就任にあわせて、フェアプレイキャンペーンサイトのリニューアルを行いました。 フェアプレイキャンペーンサイトはこちらから

http://www.japan-sports.or.jp/portals/0/data0/fair/

●フェアプレイエピソード募集

「日本フェアプレイ大賞2018」エピソードを募集します。

スポーツ現場であなたが実践した「フェアプレイ」、あなたが見た「フェアプレイ」、感動した「フェア プレイ」など、みんなに伝えたいフェアプレイエピソードをお送りください。

応募されたエピソードの中から「日本フェアプレイ大賞2018」作品を選ばせていただきます。

【エピソード募集期間】平成29年6月1日(木)~12月31日(日)

フェアプレイエピソード 投稿ページ https://fairplay.japan-sports.or.jp/

日本フェアプレイ大賞2017 大賞作品のマンガはこちらから https://fairplay.japan-sports.or.jp/inc/pdf/FPN_manga_2017.pdf





クラブアドバイザーも資質・技術の 向上を目指しています!

クラブを運営されているみなさまに寄り添って活動をしているクラブアドバイザー。 そのクラブアドバイザーは、一堂に会して資質・技術向上のための研修を毎年受けています。その研修の様子をご紹介します!

クラブアドバイザーとは?

クラブアドバイザーは、総合型クラブが地域スポーツの担い手として重要な役割を果たしていけるよう、クラブの創設から自立・活動までを一体的にアドバイスすることを目的に活動しています。

日本体育協会では、平成29年度は33都道府県体育(スポーツ)協会に33名のクラブアドバイザー を配置しています。

クラブアドバイザーミーティングとは?

日本体育協会が配置しているクラブアドバイザー等を対象に、その資質と技能の向上を図ること を目的に実施しています。

平成29年度は、平成29年3月に策定された「第2期スポーツ基本計画」をメインテーマとして、 5月25日(木)・26日(金)の日程で行われました。

1日目 5/25(木)

▼講演兼アイスブレイク▼

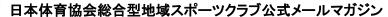
「相手の課題を的確に捉え、解決策を考えるためのスキル」

講師:島根宏幸氏(アソビュー株式会社)

クラブアドバイザーは、クラブ訪問等を通じて、クラブの課題を見出し、的確なアドバイスを与えることが求められるため、「的確に課題を抽出する質問力」と「課題を見つける力」にスポットを当て、グロービス・マネジメント・スクールにて「クリティカル・シンキング」講座等の講師としてご活躍されている島根氏に昨年度に引き続きご講演いただきました。

また、この時間の中では、参加者間のアイスブレイクも兼ねて、問題を見つけ、問題箇所を特定し、 原因を考え、解決策を考えるグループワーク等も行いました。







講演内容(一部)

問題が何かを考え、解決策を立案するためには、以下のステップ を様々な順番で行うことが重要。

- ①状況、前提を踏まえて、問題は何かを決める(問題の明確化)
- ②問題の分解を行い、問題箇所を特定する
- ③「なぜ」を5回繰り返し、原因の本質をつかむ(原因の追究)
- ④オプションを広げ、判断軸を持って、「どうすればよいか」を 選択する(解決策の立案)



2日目 5/26(金)



「第2期スポーツ基本計画について」

説明者:野原 聡氏 (スポーツ庁健康スポーツ課 連携推進係長)

スポーツ庁の野原係長から、平成29年3月に策定された「第2期スポーツ基本計画」の概要について説明いただきました。

講演内容(一部)

第2期スポーツ基本計画には、4つの指針がある。

- ①国民がスポーツで「人生」が変わる!
- ②国民がスポーツで「社会」を変える!
- ③国民がスポーツで「世界」とつながる!



①~③によって、「未来」を創る!

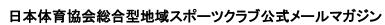


第2期スポーツ基本計画には、「総合型クラブの質的充実」の項目が設けられ、総合型クラブは量的拡大から質的な充実により重点を移して施策を推進することが施策目標として提示されている。

第2期スポーツ基本計画 詳細はこちら (スポーツ庁ホームページ)

http://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop01/list/detail/1383656.htm







▼グループワーク▼

「第2期スポーツ基本計画について」

スポーツ庁 野原氏の説明を踏まえて、以下の2つのテーマによりグループワークを行いました。

テーマ(1):中間支援組織に求める総合型クラブに対する支援の内容

テーマ②:総合型クラブと名乗るために最低限満たすべき要件

グループワーク内容(一部)

テーマ① 中間支援組織が担うべき支援の具体例としては、「行政との連携促進を図るための支援」 や「労務士・弁護士といった専門知識の相談対応支援」といった様々支援案が提示され、 参加者内で共有することができました。

テーマ② 総合型クラブを名乗るために満たすべき要件としては、「公益性」という単語が多く聞かれました。





今回参加者からいただいた意見については、本会内での登録制度検討にあたっての参考としていくほか、スポーツ庁へ情報提供する予定です。

